【若年性認知症専門通所 HOPE 出張サロン報告】

日時：令和６年２月 17 日（土）13：30～16：00
参加者：若年性認知症当事者 10 名、ご家族８名
下丸子４丁目民生委員１名、たまがわ包括１名、やぐち包括１名、たまデイ１名
荏原病院患者支援センター１名、若年性認知症相談窓口２名
認知症サポートセンター１名、お子様１名
下丸子デイ（HOPE）３名
主催：HOPE スタッフ　　協力：若年性認知症相談窓口
内容：
①臨床美術アート プログラムタイトル「スクラッチクロッキー」
・・オイルパステルで色を重ねて塗り、鉛筆の先のように
削った竹の箸で引っ掻いて様々な模様を描く
講師 臨床美術士　　先生

②お茶会を通しての歓談・交流会
ケーキ、お茶を通して皆で会話をしながら臨床美術の振り返りと歓談・交流

目的：＊当事者の方には臨床美術を体験していただき、脳の活性化、症状改善を図る
楽しく過ごす時間をつくる、他者交流、社会との繋がり
＊家族の方には童心に帰り、アートに集中することでのストレス緩和、自己の発見
他者と会話をすることでのストレス発散、他者交流
＊他、関係者には、臨床美術の理解と経験、共に体験することへの共感性を得る、
自己の発見、当事者、家族との交流とアセスメント、臨床美術を知る
ストレス緩和

全体を通して
・臨床美術は皆、集中して取り組まれており、手をオイルパステルで汚しながら童心に
帰ったように思うまま描かれていた。
本来は、全ての作品が揃ったあと、全員の作品を皆で
鑑賞しながらコメントや質問のやり取りを講師と参加者で行い、シェアリングし、様々な気づき
とクスっと笑うような場面の時間を長くとるのだが、今回は時間の関係上、一部の人のみの
やり取りとなった。
あえて相談にくるといつも号泣しながら話をしている家族の方の作品に
スポットを当てていただいたのだが、困って曇った表情とは裏腹にキレイで明るい色彩の
作品を見て、彼女の心の中は、こんなに明るい色があるのかと気付くきっかけになった。

・家族が臨床美術に集中できるように当事者席と家族席を話して配置した。
そうしたことで家族も自分との向き合いに集中できたのではないかと思われる。臨床美術が終了したあと「ストレス発散できましたか？」と講師が聞いた所「はーい」と方々から返事がきていたこともあり、とてもいい空気感のなか時間が過ぎて行った。

・本人会（若年性認知症の本人会）と家族会（若年性認知症家族と OB）や普段の相談等で、泣きながら、怒りながら、悩みながら、皆で気持ちをシェアし合っている皆様が童心に帰ったように夢中になってアートに取り組み、後の歓談の会で楽しそうに話をしている姿を見て、本当にこのような会は必要だなと改めて感じた。家族もご本人達も支援者もこのような繋がりがなければ個別で悩んでいたかもしれないが、ご家族によっては愚痴を言い合いながら、ご本人達やスタッフは心から楽しんで自身の「推し（ファンで応援している人）」の話で盛り上がっていた。この集まりと繋がりの場は大切な支援の輪であること、彼らの居場所がここにあるし、何もなかったところから、こんなに多くの人との繋がりができてきたのかと、少し遠くから俯瞰してみて感じることのできたいい会であった。また次の企画を考えていく。

三か月前から企画、講師と打合せを繰り返し、物品準備をしてきました

お茶とお菓子のセッティング終了

午前中から会場準備

皆の喜ぶ顔を想像しながら材料を揃え
前日からてづくりケーキを仕込みました♡

臨床美術「スクラッチクロッキー」

講師のデモンストレーション

全員　真剣に取り組んでいます

左側が家族席、右が本人会

何色を使う?最初だけ黄色
あとは自由

思う存分描いた後は、台紙の色選び
自分で描いたものに合うのは何色かな
自分で選んで決めます

できあがった作品を貼っていきます
色とりどりですね

講師からの講評とシェアリング

個性あふれる作品たち

皆で労いの拍手

お菓子とお茶で交流会

ケーキと紅茶、コーヒーで
歓談・交流タイム
※ゆっくりしすぎて写真を撮るのを忘れていましたので数枚しかありません

「楽しかったね♫」
「どのケーキが一番すき？」
「全部いちばんだよ」
そんな声が聞こえてきました

スウェーデン伝統菓子
「スウェーデンケーキ」

イギリス伝統菓子
「キャロットケーキ」

オリジナル
「いちご＆バナナの
ドリッピングケーキ」

～次回へ向けて～
次回は認知症への取り組みと事業所を知ってもらうこと、当事者の方を知ってもらうこと、支援の普及のためにも
ケアマネ等の支援者の参加を検討したい

以上

記録　下丸子在宅（HOPE）